

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和6年度	
事業番号	108	事業名	文化芸術ワークショップ事業		担当課		生涯学習課	
					予算区分（款-項-目-中事業）		なし	
			(中事業名) なし		決算書ページ		-	~
総合計画	基本目標	5	いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪					
	政策	1	まちの資源を生かした市民同士の交流の促進					
	施策	(2)	文化芸術による交流					
	その他	開始年度	2021					
		終了予定年度	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可	
I 基本情報	根拠法令等	文化芸術基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律						
	関連計画	ながくて未来図（長久手市第6次総合計画）(H31. 3) 第3次長久手市文化芸術マスターplan (H30. 3)						
事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		アウトプット（詳細はⅡへ）  ②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)	アウトカム（詳細はⅢへ）  ③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わらるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)		
	【対象】 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 事業者 <input type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> その他 対象の数： 6500			【アクションプラン指標】 連携して行う事業数  【その他の指標】		市役所内の他の課や、他部署、 他機関の職員が事前準備などで 関わった人数  (成果指標名)  連携による担当者、関係者数の 累計数		
	文化芸術をまちづくりに生かすため、福祉、観光等の専門家と市民や文化の家利用者との意見交換の場を創出し、他部署と連携したワークショップやフォーラムを開催します。						大事業共通	多様な課題や、目的に対して、 文化や芸術を活用して、課題に 対しての新しいアプローチや、 賑わいの創出などを生むこと で、文化や芸術の活用による新 しい価値が関わった人に発見さ れる。

II 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標	活動指標名	単位	基準値（2023年） 目標値（2028年） ※AP指標のみ	区分	R6(2024)年度	R7(2025)年度	R8(2026)年度	R9(2027)年度	R10(2028)年度	
		1 【アクションプラン指標】 連携して行う事業数	事業	基準値	2	目標値	3	3	3	3	
				目標値	3	実績	3				
		2		基準値		目標値					
				目標値		実績					
		3		基準値		目標値					
				目標値		実績					
		4		基準値		目標値					
				目標値		実績					
		事業開始の背景	2021年より、文化芸術基本法に沿った、文化や芸術を活用した多様な分野へのアプローチを実践するべく、まずは市役所内で課を越えて、文化や芸術を活用した事業を計画した。（例：男女共同参画啓発事業 演奏付き講演会、敬老事業コンサート企画、福祉アウトリーチ、アーティストによる引きこもり支援の場訪問等）								
		各年度の取組、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由									
		R6	2021年から継続している、男女共同参画事業において、ボーカロイドの先駆者でアーティストの鮎川ばて氏をお招きして講演会を開催した。また敬老事業では、地元アーティストによる演奏会を企画し参加者から好評を得た。またひきこもり支援の場での美術系アーティストと気軽にしゃべれる場も、数字としての評価はしにくい部分だが成果があった。アーティストのやりがいや、新しい発見の場にもなっている。	R7							
		R8		R9							

<b>III 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）</b>  <b>成果指標（CHECK）</b>  <b>加える変化（ACTION）</b>	成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標									
	連携による担当者、関係者数の累計数		人	R4 年度 11	▶	R5 年度 18	▶	【現状】 R6 年度 20	▶	R7 年度 25	▶	R8 年度 30	
	成果達成状況								指標目標値の根拠				
	A	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている							他課の職員と、文化や芸術を取り入れることで、事業や課題にアプローチする新しい手法や、新しい価値を見いだす機会となり、各課の事業が充実し、興味・関心を市民のみなさんが向けることにつながる。連携を経験したことのある職員が増え、毎年蓄積されていくことを目指す。同じ課と同じ連携を繰り返すのではなく、新しい連携を模索していく。その課の関係職員数が毎年プラスされていき、連携経験のある職員を増やしていくため年度ごとにリセットされない累計数を中間成果指標とする。				
	評価の理由、分析												
	他の課の担当者と、その担当者が抱える事業や課題に対して、相談と議論を重ね、目的に沿った事業を制作することができた。												
	今後の方向性			今後の方向性の理由									
	A	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止	既存の多様な事業にも、文化や芸術を取り入れることで、新しい価値や、市民の関心を得ることにつながる機会を生むことになる可能性があるため、連携する事業を増やし、まちづくりに文化や芸術を活用したい。										
	<b>改善ポイント</b>												
	(成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
	見直しの余地のある取組名	見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容										見直し可能年度
	1 文化芸術による連携	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	まだ連携をしたことがない課とも、連携を試みる。このために、市役所内部でも文化や芸術を活用する提案を行っていき、連携を増やしていく。										R8
	2	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止											
	3	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止											

IV 費用  令和8年度予算の方向性（PLAN）	R8年度の費用（R7年度比）		3年間の推移	(単位：千円)		R5(2023)年度		R6(2024)年度		R7(2025)年度
	B	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		事業費	予算	決算	予算	決算	予算	
		理由			0	0	0	0	0	
	予算的な措置が無くとも、各課との連携は可能なため、現在のように、連携できる課題から取り組んでいく。	合計額		(内 国費)	0	0	0	0	0	
		(内 県費)		(内 諸収入)	0	0	0	0	0	
		(内 その他)		一般財源	0	0	0	0	0	
		R7年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、 (R6年度予算額) >								
		積算額		予算なし						